

指定管理者評価シート

事業名	生涯学習センター運営管理費	所管課(電話番号)	所管局生涯学習部生涯学習推進課(211-3871)
-----	---------------	-----------	---------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市生涯学習センター (札幌市教育センター開放施設を含む)	所在地	西区宮の沢1条1丁目1-10
開設時期	平成12年8月25日	延床面積	12,106㎡
目的	市民に自主的な活動及び交流の場を提供し、生涯にわたる学習活動を総合的に支援することにより、豊かな生涯学習社会の実現を図る。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に関する学習機会の提供及び指導者等の人材育成に関すること。 ・生涯学習に関する調査、研究、企画立案及び啓発に関すること。 ・生涯学習に関する情報の収集及び提供並びに相談に関すること。 ・生涯学習に関する事業を行う団体の連携及び交流の支援に関すること。 ・学習成果の発表及び鑑賞の支援に関すること。 ・生涯学習センターの施設を使用に供すること。 ・その他生涯学習センターの設置目的を達成するために必要な事業。 		
主要施設	ホール、講堂、研修室、音楽・演劇スタジオ、メディアプラザ(図書、視聴覚、学習相談コーナー)等		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由: 当該施設は、札幌市における生涯学習施策を推進していくための総合的な中核施設であり、指定管理者には生涯学習に関する専門的な知識や事業の企画立案に関するノウハウが必要であるとともに、運営管理にあたっては、長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成が必要であることから非公募とした。		
指定単位	施設数: 1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸室業務、学習機会提供事業、学習活動支援事業等		
3 評価単位	施設数: 1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和5年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価				
1 業務の要求水準達成度							
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>▼ 当財団が策定した下記の基本方針に基づき、管理運営を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学びを支える環境づくりの推進 ○ 学びを育む人づくりの推進 ○ 快適に利用できる施設環境の整備とサービスの向上 ○ 環境に配慮した効率的・効果的な事業運営 <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>▼ 貸室の平等利用を図るため、主として抽選による受付を実施した。抽選受付は先着順とし、受付方法についての効率化やわかりやすい説明を心がけた。</p> <p>▼ 講座の受講機会の平等を図るため、受講希望者多数時にはコンピュータによる自動抽選を実施した。</p> <p>▼ 多くの市民に情報を提供するため、ホームページや広報誌の発行などの広報活動を行った。</p> <p>▼ 障がい者を理由とする差別の解消の推進を行なった。</p> <p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p> <p>▼ 事務用品について、リサイクル商品や、詰め替えで再利用できるものを積極的に使用し、ゴミの軽減に努めた。また、再生紙利用の推進、資源回収によるゴミのリサイクル化など環境配慮に努めた。</p> <p>▼ 過剰冷房・暖房を控え、事務室の設定温度の上・下限を定めるとともに、5月～10月はクールビズを実施した。また、貸室においても、利用者に対して設定温度での空調利用を要請した。</p> <p>▼ 利用者に支障が生じない範囲で、館内の照明間引きを増やし、トイレの便座暖房の抑制、使用していない部屋の照明の消灯を徹底するなど、節電に努めた。</p>	<p>・基本方針に基づき、ハード面、ソフト面の両方のアプローチから総合的に管理運営をすることができた。</p> <p>・関係条例や規則の遵守に努め、平等利用の原則を確保することができた。</p> <p>・館内各所のスロープや手摺りについて日常的な整備を行った。</p> <p>・ホームページの更新にあたってはウェブアクセシビリティに配慮した。</p> <p>・財団の収支状況に十分意を配りながら、リサイクル品の購入や、冷暖房の節約など、可能な限り環境に配慮するよう努めた。</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%; background-color: #ffff00;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> </table> <p>・適正な管理運営により、要求水準を達成していると認められる。</p> <p>・平等利用は公の施設の運営における要であるため、引き続き利用者への丁寧な説明を続けながら、平等利用の確保に努めていきたい。</p> <p>・平成30年「省エネ診断」の結果を参考にしつつ、引き続き環境に配慮した取組をお願いしたい。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

- ▼ 統括管理責任者としてセンター長を配置した。組織体制は、総務・施設管理部門として施設課を、事業部門として事業課を置き、それぞれの責任者として課長を配置した。
- ▼ 業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を定めた。
- ▼ 係単位で定期的に会議を行い、様々な問題について協議するとともに、文書やメール等により職員間での情報を共有することで、市民サービスの維持向上に努めた。
- ▼ 人材育成のための研修を実施するとともに、外部研修等に参加した。また、企画立案に関わる職員の研修参加に努めた。(研修会参加一覧参照)

専任が望ましいが、厳しい財務状況を踏まえ、センター長は事務局長と、施設課長は総務課長と兼務している。

係単位の他に、係間の情報を共有することで、迅速な市民サービスを提供できるよう行った。なお、毎朝役職者(事務局役職者会議)が集まって、各種情報共有を行っている。

・係長研修と課長研修を実施し、役職者の意識の向上を図った。

・組織全体での情報共有体制を構築し、組織内において管理運営上の課題解決に努めていただきたい。

・組織力強化のためには、人材育成が重要となるので、管理職のマネジメント能力や一般職の能力向上に資する研修を計画的に行っていただきたい。
・特に、生涯学習センターは本市の生涯学習推進の中核施設であり、これからも地域の生涯学習に携わる個人や施設・団体を支援する機能がより一層求められてくる。この役割を果たすためには、センター職員の資質向上が欠かせないため、社会教育士の称号取得や、そのための社会教育主事講習の受講など、職員が積極的に外部団体等の研修に参加するよう組織として取り組んでいただきたい。

<p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ グループウェアの運用 ▼ 会計・財務システムの運用 ▼ 貸室受付システムの運用 ▼ 事故対応要領に基づき、事故防止、事故発生時における、組織内の役割分担、緊急連絡体制などを整備し、迅速かつ適切な対応を心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板機能や閲覧板機能等の適切な運用により、管理水準と利用者の利便性の向上に努めた。 ・職員全員が事故防止を心がけ、安全確保を図ることができた。 ・連絡体制を整備し、各関係団体とも連携を取るよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・システムの利用においては、セキュリティ対策を万全にし、特に個人情報の取り扱いにはご留意いただきたい。セキュリティについては、日ごろから職員の意識が重要となるため研修も活用されたい。
<p>▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 警備・清掃・施設管理などの委託業務において、日報、月報、報告書により管理状況を確認するとともに、適宜打合せを行い、現状の把握と今後の対応などの情報交換を図り、迅速かつ適正な維持管理に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業務に係るマニュアルに基づき適正な管理を行った。 ・故障、破損等の早期発見や、不審者への対応の協議など、日常的に情報の共有を図り、適正に業務を監督した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者への業務委託について、指定管理者制度上、その実施責任はすべて委託者にあることを十分に認識し、適切な指導監督に当たっていただきたい。 ・また、委託者として説明責任を十分に果たすことのできるよう、正確な情報伝達、委託業務の履行確認を徹底していただきたい。 ・再委託、再々委託による連絡系統の細分化により、責任の所在や緊急時の対応に遺漏が出ることの無いよう、指揮命令系統について日常的に確認を行っていただきたい。

▽ 委員会及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 (6月22日)	委員5名参加 ・令和4年度事業報告 ・令和5年度事業計画 ・令和5年度事業報告(4~5月) ・管理運営水準の維持向上に向けた協議
第2回 (11月24日)	委員4名参加 ・令和5年度の事業報告(6~10月) ・管理運営水準の維持向上に向けた協議
第3回 (3月6日)	委員5名参加 ・令和5年度事業報告(11~1月) ・令和5年度利用者アンケート結果報告 ・管理運営水準の維持向上に向けた協議
<p><協議会メンバー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐久間章(札幌国際大学 教授) ・安田敦司(西のコンサ通り商店会 会長) ・竹田慎一(さっぽろ市民カレッジ 講師) ・五十嵐健二((公財)さっぽろ青少年女性活動協会、札幌エルプラザ公共4施設 施設長) ・大瀬秀樹(札幌市所管局生涯学習推進課 生涯学習推進課長) ・嶋内明(札幌市生涯学習センター長) 	

昨年度の事業報告と、毎月、対面で行われる一斉受付の開催方法についてご意見をいただきました。

通常は午前・午後・夜間の区分で貸し出す貸室を1時間単位で利用させる時間貸しについて意見をいただきました。

利用者アンケートの結果と、ホール時間貸しの試行実施に向けた進捗について意見交換を行った。

・有識者を交えた会議は、施設の管理運営上の問題点・改善点、市民サービス・管理水準・新たな事業展開等について協議し、外部の視点からの意見を反映させることが目的である。
・有意義な協議の場となるような協議の設定、準備をお願いしたい。また、さらなる市民サービスの向上につながるよう事務局においては委員からの意見をできる限り反映いただくようお願いしたい。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。
- ▼ 流動性や利回り等に配慮し、金融機関及び金融商品の安全性に一層留意した対応を行っている。また、資産の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守している。
- ▼ 「経理面での不正防止対策要領」及び「小口現金取扱要領」に基づき、現金残高、銀行口座、郵便振替口座の確認、領収書の作成及び保管、金券類、小口現金の管理を行い、適正な事務処理の徹底に努めた。

・所管部局による検査及び公認会計士による外部監査の結果、適正に管理しているとの評価を受けた。

・適正に実施していると認められる。引き続き、職員間での日常的なチェック体制を確保し、金銭面での事故の無いようをお願いしたい。

▽ 要望・苦情対応

- ▼ 要望・苦情に対しては、利用者ニーズとして記録し、速やかな対応を心がけた。また、毎月届いている要望等を職員で供覧し、情報の共有に努めた。

・意見、要望、質問について迅速な回答と対応を行った。
 ・施設に寄せられる意見の中には、回答先が不明なものもあるため、施設としての考え方や対応を利用者に伝えるために、ホームページ上に回答コーナーを設け、できるだけ多くの意見等に対応できるよう取り組みを進めた。

・要望・苦情に対しては、適切に対応していると認められる。
 ・苦情等への対応については、速やかな対応に加え、相手方の申出内容・状況を正しく聞き取り、施設側の事情を説明する際には誤解の無いように丁寧な説明を心がけていただきたい。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

- ▼ 利用者アンケートや各事業の受講者アンケート等によるセルフモニタリングを実施した。利用者アンケート等での要望・意見については、所管局とも連携し適切に対応した。

・利用者アンケート等により、利用者の施設利用に関する要望・意見等を把握するとともに、苦情等の整理・分析を行い、その結果を運営協議会に報告した。そこでの協議結果を踏まえ、利用者目線に立った迅速な対応を心がけた。
 ・休憩場所の不足を指摘する声があったことから、1階ロビーにベンチを常設した。また水飲み場の再開を望む声が多かったことから、令和6年夏の再開に向けて準備を行うなど、利用者の声を反映した取り組みを行った。

・利用者アンケートは改善点を発見するためには、重要なものであるので、引き続き、積極的に進めていきたい。
 ・また、運営協議会の意見にもあったように利用したことがない市民の声を拾っていく方法も検討していただきたい。

- ▼ 札幌市の業務財務検査に関しては、記録・帳簿等の適切な整備保管状況など要求水準を達成したかなどについて、自己チェックを行った。

<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 財団諸規則の見直しや、ハラスメント相談窓口を設置するなどし、適正な労働環境の確保に努めている。また、法定労働時間を超えての労働については、36協定を締結し、労働基準監督署に届け出た。 ▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランスPlus取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めた。 ▼ 私有スマートデバイス(個人端末)等の業務使用に関する取り扱いを規則で定めたことで、業務効率の向上を図った。 	<p>・ハラスメント防止のために研修に参加するなど対応した。</p> <p>・一昨年度の所管局による業務検査において、職員の長時間労働に関する指摘を受け、業務システムの見直し等を行い、事務作業の軽減及び残業時間の短縮を図った。</p> <p>・外勤先など場所に制約を受けない働き方が可能となり、業務効率化、円滑な情報共有を図った。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・昨年度の業務検査において、時間外勤務の縮小が確認でき、業務改善が図られていることが認められる。</p> <p>・職員を守るという観点から、カスタマーハラスメントへの取組もお願いしたい。</p> <p>・個人端末の利用については、セキュリティ及び勤務時間の管理に留意したうえで運用いただきたい。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								
<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 各関係法令に基づき、施設設備などを良好に維持した。長期的かつ安全な維持管理を行うため、故障や破損の早期発見、初期対応を速やかに行い、被害を最小限に留めた。経年劣化により早期の改修が必要となっている施設構造部分などについては、所管局と連携し、計画的に対応していくよう努めた。 ▼ 事件・事故が発生した場合は、適確に状況を判断し、常に利用者の安全を優先するよう職員の意識を統一した。 ▼ 緊急連絡網により、有事の連絡体制を確保した。 ▼ 損害保険等、必要な保険に加入し、万一の事故に備えた。 	<p>・躯体の不具合や敷地内の陥没等については、早期発見と立入制限等来館者の安全確保のための初期対応を迅速に行った。</p> <p>・経年劣化の激しい設備・機器等について、所管局と連携し、計画的に更新・修繕に取り組んだ。</p> <p>・館内他施設と情報を共有し、有事の際の連絡体制を確保した。</p> <p>・利用者の安全や快適な利用のため、貸室内の設備や機器を随時チェックし、整備・修繕に取り組んだ。</p> <p>・救急対応等の事件・事故時には、職員・守衛等が連携して対応した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・施設の老朽化も進む中、故障や破損を早期に発見し、利用者の安全確保、市民サービス向上のための施設維持管理に取り組んでいることは評価できる。</p> <p>・今後も、法令、事故発生時の対応マニュアル等を適宜確認しながら、現在の取組を継続していきたい。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								

▽ 施設・設備等の維持管理（清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等）

▼ 清掃業務

清掃員を配置し、開館前及び開館中に巡回清掃することで、常に清潔な施設を維持した。ワックス塗布などの定期清掃も計画的に実施した。

・貸室の稼動状況に合わせ、効率よく清掃業務を実施することで、施設利用者に快適な利用環境を提供することができた。

・利用者からも清潔な施設への感謝の声が届いており、来館者が気持ちよく利用できる施設を維持していることは評価できる。

▼ 警備業務

警備業務実施要領に基づき、専門の警備員を配置し、防災防犯体制を整え、利用者の安全確保に努めた。

・周辺施設の利用を目的とした観光客の増加に伴い、施設内の人の出入りが、継続して増えてきている。施設の周辺環境の変化についても、警備員との情報共有を徹底することで、不審者対応などをスムーズに行うよう努めた。

・地下鉄駅直結であることから、周辺観光施設利用者の出入りも増えているが、事故なく施設を運営していることは評価できる。引き続き安全確保に努めていきたい。

▼ 施設維持管理業務

施設及び設備の機能が長年にわたって、正常に保たれる点検・保守に努め、故障が発生した場合は、速やかに復旧するよう努めた。

・開館から20年以上経過し、施設の老朽化に伴う不具合等が発生しており、所管局と連絡をとりながら迅速な復旧を心がけた。
・委託業者が定期的に保守点検を行ったほか、毎月定例会議も開催し、問題点や課題解決に向けた情報共有を行った。

・リスク分担の見直しにより、迅速な修繕を行っていることを評価する。
・今後も点検業者と密に情報共有を行い、不具合が悪化する前の迅速な対応をお願いしたい。

▼ 快適に利用できる施設環境の整備と利便性向上

・老朽化した館内の整備を日常的に行なった。
・利用者のニーズや声を受けて、施設環境の整備や備品の追加及び更新を行なった。

▼ 修繕

施設維持管理業務委託業者と連携をとり、修繕箇所が発生した場合には可能な限り利用者に影響が出ないよう速やかに初期対応をとるよう努めた。

・委託業者との連携を密にし、利用者への影響を最小限にすることを優先し、速やかな修繕対応を行った。
・機器の故障を未然に防ぐための日常点検を随時行った。

▼ 備品管理

日頃から備品の点検・保守に努め、破損・故障等が発生した場合は速やかに復旧するよう努めた。

・日常的に備品の点検保守を行うほか、所管局と連携して音楽スタジオのアンプ類や研修室のマイク等の予備品を常備し、故障時には迅速に交換できる体制を整えた。
・故障や老朽化で長年使用されていない備品を適切に廃棄処分した。
・備品の保守点検にあたって、一部使用期限の把握漏れを所管局に指摘されたため、今後はリスト化するなどして委託業者とも情報共有を図り、再発防止に努めていく。

・備品の使用期限の確認漏れ等がないよう、点検については再委託業者との密な情報交換をお願いしたい。
・積極的に不用物品の洗い出しや廃棄に取り組んでいることは評価する。
・開館時から使用している備品については計画的な交換が必要なため、今後も日常的な点検を続けていきたい。

▼ 駐車場管理

「生涯学習センター駐車場管理運営業務仕様書」に基づき、駐車場管理業者と協議を行いながら、適切な運営を行った。

・老朽化による躯体や設備の不具合などは所管局に速やかに報告し、修繕などの対応をしている。
・人件費増の影響により管理費や修繕費が増加する見込みのため、駐車場の現行契約内容を精査し、再委託業者と協議していく。

・駐車場については、民間商業施設の一部を使用していることから、再委託業者と連携し、利用しやすい駐車場にしていきたい。

▼ 外溝緑地管理

再委託業者に対し、随時適切な指導監督、点検確認を行い、美観の保持、利用者の安全を確保し、快適な緑地環境に努めた。

・年間計画どおりに安全確保、美観の保持を行った。

	<p>▽ 防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 利用者の安全を確保するため、防災計画に基づき、災害などの緊急事態に備えた体制作りを行った。 ▼ 生涯学習総合センター内の4施設合同の防災訓練を定期的実施し、災害時に備えた。 令和5年8月、12月、令和6年3月に消防(防災)訓練を実施した。 ▼ 災害時に備え、複合施設内他団体において、夜間緊急連絡網の整備・再確認を行い連携を強化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを館内に居なくても情報更新できるようにし、緊急時に備えている。 ・財団の緊急連絡網の他に館内他施設との緊急連絡網も整備し、災害時に備えている。 ・年3回の防災訓練では館内他施設への参加協力を行い、連携強化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時においても館内連携をスムーズに行えるよう、訓練においても具体的なシミュレーションを行い、万が一の時の利用者の安全確保のため備えていたきたい。 								
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 生涯学習に関する学習機会の提供及び指導者等の人材育成に関する業務</p> <p>①さっぽろ市民カレッジの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 年3期(4~8月、9~12月、1~3月)に分け、市民活動系、産業・ビジネス系、文化・教養系の3つの系で幅広い年齢層に対応して実施した。 【実績】 受講者3,834名(計画2,713名)203講座(計画239講座)実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動系については、実際に活動している講師から話をしてもらうことで、より具体的な活動へのイメージを伝え、受講者の学習意欲を高めることができた。 ・普段来館が難しい市民に受講を促すため、一部の講座において、オンラインを取り入れた。 ・受講者数は目標の3,000名に達した。アンケートによる感想は概ね好評であるが、現役世代以外の受講が多い。産業・ビジネス系など、現役世代をターゲットにしている受講者の確保について検討していきたい。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1289 555 1347 622">A</th> <th data-bbox="1347 555 1394 622">B</th> <th data-bbox="1394 555 1450 622">C</th> <th data-bbox="1450 555 1514 622">D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4" data-bbox="1289 622 1514 1525"> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを取り入れ、受講方法の選択肢を広げたことは評価できる。 ・受講者数は要求水準を満たしており、感想も概ね好評であることも評価できる。 ・実施した講座について受講者層や受講率に関する分析を行い、受講者の裾野を広げるため、各世代のニーズを捉えた企画をお願いしたい。 </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを取り入れ、受講方法の選択肢を広げたことは評価できる。 ・受講者数は要求水準を満たしており、感想も概ね好評であることも評価できる。 ・実施した講座について受講者層や受講率に関する分析を行い、受講者の裾野を広げるため、各世代のニーズを捉えた企画をお願いしたい。 			
A	B	C	D								
<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを取り入れ、受講方法の選択肢を広げたことは評価できる。 ・受講者数は要求水準を満たしており、感想も概ね好評であることも評価できる。 ・実施した講座について受講者層や受講率に関する分析を行い、受講者の裾野を広げるため、各世代のニーズを捉えた企画をお願いしたい。 											

▼ 【企画委員会】

開催回	協議・報告内容
第1回 (5月25日)	委員6名参加 ・令和4年度講座実施報告 ・令和5年度春・夏期講座について ・令和5年度秋期講座について ・ウイズコロナ時代における”新しい”さっぽろ市民カレッジのあり方について
第2回 (10月3日)	委員4名参加 ・令和5年度春・夏期講座の実施報告 ・令和5年度秋期講座の実施状況について ・令和5年度冬期講座について
第3回 (12月18日)	委員6名参加 ・令和5年度秋期講座の実施報告 ・令和5年度冬期講座の企画について ・令和6年度春・夏期講座の企画について
<p><企画委員会メンバー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長谷川聡(北海道医療大学非常勤講師) ・丸山博子(丸山環境教育事務所代表) ・安富啓(榊石塚計画デザイン事務所代表取締役) ・臼井栄三(マーケティングプランナー) ・栢谷隆男(札幌学院大学特任教授) ・井上大樹(札幌学院大学准教授) ・福光健治(ちえりあ学習ボランティア代表) 	

▼ 【センター企画講座】

デジタル社会に対応した講座や、起業に向けた講座など、受講者にとって身近なテーマを取り扱った。講座の中で終了後の活動のイメージを持ち、学んだ成果を活動に生かすことができるような講座を実施した。

・アフターコロナにおける講座の実施形態や次年度講座のテーマ案、今後の講座運営における市民参画など、さまざまなご意見をいただき、事業運営の参考とすることができた。

・生涯学習に関する調査研究事業の結果を企画委員に提示し、企画委員会での活発な意見交換を期待したい。
・また、企画委員からの意見をできる限り反映させ、さらなる内容の充実をお願いしたい。

<p>▼ 【大学との連携事業】 大学と連携し、互いの特性を生かした講座を提供した。 【実績】 ・札幌市立大学:「小樽の歴史的建造物をたどる」20名 「さっぽろの遊郭史」20名 ・北海学園大学:「親子で作る！6種類の野菜料理講座！」 7組14名 「やさしく学ぶ俳句講座」22名</p>	<p>北海学園大学では、社会教育主事過程で学ぶ学生に、講座を企画してもらい、市民カレッジの講座として実施した。授業の一貫として実際に企画から運営までを担当したことで、生涯学習・社会教育の現場を体験してもらうことができた。</p>	<p>・講座の企画から学生が携わる取組は、生涯学習に関する人材育成という観点からも良い取組であり、評価できる。今後も大学と連携した事業を積極的に展開していただきたい。</p>
<p>▼ 【連携講座】 それぞれの特性を生かした講座を実施した。 【実績】 ・雪印メグミルク株式会社 「牛のお話と工場探検！」(春・夏期)15名 同(冬期)15名 ・アサヒビール株式会社 「つくって、学ぼう！SDGs」15名 「お酒との上手な付き合い方」38名 ・東洋水産株式会社 「子どもラーメン道場」10名 「おいしい「めんつゆ」の虎の巻！だしの秘密」40名 ・株式会社明治 「発見！チョコレートのひみつ」16名 ・株式会社日本能率協会マネジメントセンター 「自分らしい時間<とき>を描こう！」14名 ・株式会社インターパークNomaps 「ExcelユーザーのためのChatGPT入門講座」16名 ・石山大学 「石山軟石と馬鉄、そして定山溪鉄道と石切山駅」13名 ・土木学会北海道支部 「バスで行く！工場現場見学ツアー」30名 ・札幌市円山動物園 「命をつむぐゾウ舎の取り組み」20名</p>	<p>・民間企業等と連携し、それぞれの持つノウハウとネットワークを生かし、多彩な学習機会を提供することができた。</p>	<p>・民間企業等のノウハウとネットワークを生かし、今後も市民の興味関心を引くような講座の企画をお願いしたい。</p>
<p>▼ 【行政機関との連携】 市内の図書館と連携し、ご近所先生企画講座を実施した。 【実績】 8館10講座</p>	<p>・地域における学びの機会を創出する取り組みを継続した。</p>	
<p>▼ 【ちえりあ学習ボランティア企画講座】 講座やイベントの企画・運営を行う「ちえりあ学習ボランティア」がアート班、歴史班、社会・環境班、札幌学班、健康班の5つの班に分かれて、それぞれのテーマで15講座実施した。</p>	<p>・定員を超える申し込みがある講座も多くあり、市民の学習ニーズを捉えた講座の企画・運営を行うことができた。 ・講座アンケートに寄せられた意見を基に現地学習やまちあるきを取り入れた講座を実施した。</p>	<p>・市民の学習ニーズを捉えた講座を企画・提供したことは評価できる。 ・引き続き、学習成果を生かした社会参加の推進に取り組んでいただきたい。</p>

<p>▼ 【ご近所先生企画講座】 「市民の学び合い」をコンセプトに、市民の学習成果の活用を図りながら、地域における新たな学習コミュニティづくりを進め、生涯学習センターや他の市内20ヶ所で、85講座実施した。</p>	<p>・第3次札幌市生涯学習推進構想の「まちの活力を高めるための学びの推進」「学習成果の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実」の実現を目指し、市民が講師(=ご近所先生)となり、自身の知識・特技・経験を生かした講座を市内各地で展開することで、学びを手段とした新たな“縁(=学習縁)”をつくり出すことができた。 ・講師として活躍を希望するという要望に応えた。</p>	<p>・地域の施設を会場として、学びの機会の拡充に取り組んでいることは評価できる。 ・毎年、一定数の講座が、申込者不足により開講中止となっている現状を踏まえ、生涯学習センターとしての介入の仕方について改めて検討し、開講中止講座数の減少に努めていただきたい。</p>
<p>▼ 【学社融合講座】 学校教育と社会教育が企画段階から連携(協働)し、市立札幌大通高校において、市民と生徒が共に学び合う講座を25講座実施した。講座を修了した生徒は、大通高校の卒業に必要な履修単位として認定された。</p>	<p>・学社融合講座として、高校生と市民による異世代間交流の学びを図ることができた。グループワークなどを通じて講座終了後には、高校生と市民との間の親密度が深まった。</p>	<p>・高校生と市民と一緒に同じ講座を受講するだけではなく、異なる世代が共に学ぶことの積極的意義や相互学習による学習効果を見出せるような講座企画の検討をお願いしたい。</p>
<p>▼ 有機的なネットワークの形成と学びのコミュニティを創造した。</p>	<p>・ご近所先生企画講座において、講座後のサークル化を積極的に促し、新たな学びのコミュニティを創出した。 ・これまでに培ったネットワークが途切れないように、コミュニケーションを図りながらネットワークと学びのコミュニティの維持に努めた。</p>	

▼ 身近な地域で学びを深める環境づくりの推進

・区民センター等のコミュニティ施設や、市内の図書館でさっぽろ市民カレッジ(ご近所先生企画講座)を実施し、地域での学びの場の充実を図った。

・身近な地域での学びとは、受講者にとって物理的距離が近い場所を会場とした講座の展開だけでなく、地域課題が複雑化する今日においては、地域ニーズに沿った講座内容も求められるところである。今後は地域ニーズの把握なども視野に入れた体制の構築・機能強化に取り組んでいただきたい。

②生涯学習に関する指導者等の人材育成

▼ さっぽろ市民カレッジ受講修了者が講師となる講座を設けるなど、様々な形で学んだ成果の活用を促進した。

ア 市民講師育成(ご近所先生)

ご近所先生企画講座の講師を希望する市民を対象に、講師募集説明会、講師としての資質向上とスキルアップを目的とした研修会を実施した。また、講師同士が交流・研鑽する「講師交流会」を開催した。

【実績】説明会4回(うちオンライン開催2回)106名
研修会4回91名
交流会1回19名

・研修や面談、初回講座の立ち合い及び最終回実施後の面談をとおして、講座の企画から運営までを行うことができる講師を育成することができた。

・市民講師育成について、育成した講師が将来的には生涯学習センターを介さずとも地域で活躍できるスキームづくりに取り組むことを求める。

イ ちえりあビデオクルー

映像メディア講座受講修了者で結成されたグループの活動として、団体の活動内容を話し合う定例会を実施した。

【実績】登録者16名
月例会12回
研修会2回
講座企画・運営2講座

・地域の行事やイベントなどの他、ロビーコンサートの撮影・編集を行い映像作品を公開することで、学習成果を生かす場を提供することができた。

・学習支援者活用推進事業については、コーディネートが難しい取組であるにも関わらず、各ボランティアが活躍していることは、市民カレッジ事業の本来目的である「学習成果の活用」の取組として評価できる。
・新たなグループの立ち上げの支援にも継続して努めていただきたい。

ウ カメラボランティア

写真の撮影技術や知識を学ぶ講座の修了生がつくるボランティアサークルに活動の場を提供した。また、市民カレッジ「カメラで始めるボランティア活動！」の運営補助を務めてもらった。

【実績】登録者12名
月例会12回
講座企画・運営1講座
活動紹介・作品展示2回

・学習支援者に講座のサポートをしてもらうことで、講座内容の充実を図ることができ、学習支援者にとっても良い学び合いの機会を提供することができた。

エ コーラスボランティア

さっぽろ市民カレッジ「楽しく歌ってボランティア」講座修了者で結成されたサークルに、同講座の運営補助を務めてもらい、学習成果活用の機会を提供した。

【実績】講座運営補助 1講座

- ▼ 区民センターや地区センターなどの職員を対象に、生涯学習の意義について、生涯にわたり学び続けることがいかに生きがいにつながるか、ボランティアの事例をとおして学ぶ研修を実施した。
【実績】1回13施設14名

・コミュニケーションの方法など実践的な内容も取り入れた。参加者が同僚に情報共有し、職場全体で活用しやすい内容で実施することができた。

・地域の生涯学習を推進していくためには、生涯学習センターのみならず、コミュニティ施設等地域の生涯学習関連施設に対する取組の充実が欠かせない。その一助として、この研修事業は資質向上とネットワークづくりという重要な役割を担っている。
・引き続き、地域全体の生涯学習の推進という意識を持って、研修の内容や実施回数、対象団体などを検討し取り組んでいきたい。

③生涯学習ボランティア育成事業

- ▼ さっぽろ市民カレッジ講座の企画・運営に当たる「ちえりあ学習ボランティア」の活動として、講座企画・運営を話し合う定例会を実施した。また、活動のスキルアップにつながる研修会を実施した。
【実績】「ちえりあ学習ボランティア」登録者50名

・職員による研修会の実施や、打合せなどでのオンライン活用、各種データ保存のクラウド化の支援などにより、活発な活動につながった。

・引き続き、登録者同士の交流や研鑽の場を積極的に設け、活躍機会の拡大につなげていきたい。

④職場体験などの受入れ

- ▼ 小学校や大学等から、職場体験や社会教育演習の実習などを受け入れた。また、行政機関等の視察を受け入れた。
【実績】3校156名、2団体33名
職場体験・インターンシップ 1校132名
大学の社会教育実演等 2校24名
自治体、海外からの視察等 2団体33名

・小学校や大学等を受け入れ、学生の就業観や就労意欲を高めることができた。
・学生への指導を通して担当職員のスキル向上に繋げることができた。

・教育機関からの職場体験や実習の依頼については、今後も可能な限り積極的に受け入れていただくようお願いしたい。

▽ 生涯学習に関する調査、研究、企画立案及び啓発に関する業務

▼ 今後の当センター及び社会教育施設における事業運営の参考にするため、さっぽろ市民カレッジに申し込み又はこれを受講した50代以下の方を対象に、学習動向や当センターの利用実績などについて調査を行った。
【実績】345名

・当初、市教委に提出した調査(成果物)は一部不備があったとの指摘を受け、財団において再度提出するなど今後改善していかねなければならない点が見受けられた。
・当センター主催講座以外の講座受講者が8割を占めており、学習への関心の高さがうかがえた。

・受講しやすい回数では1日講座の回答が最も多かった。

・調査結果については、生涯学習施設としての、今後の事業に生かしていきたい。

・調査研究事業は、様々なテーマを設定して調査を行い、その分析結果をさっぽろ市民カレッジの講座企画などに反映させ、より市民の学習ニーズに即した学習機会の提供を行っていることを求めているものである。
・しかし、次年度の市民カレッジの実施内容が概ね決定している時期に調査が行われるため、分析結果が直ちに反映されないという課題が見受けられる。
・業務の一つとして定められている趣旨を今一度確認し、より良い講座企画に向けた情報収集を行うという視点で調査時期や内容をご検討いただきたい。

▽ 生涯学習に関する情報の収集及び提供並びに相談に関する業務

①生涯学習情報誌の発行

▼ 行政機関、高等教育機関、カルチャーセンター、NPOなど、市民向けの学習機会を提供している施設の特徴や主な開催講座等の情報を掲載する冊子「さっぽろ生涯学習情報 大人の学び場MAP」を発行し、市内の公共施設等で配布した。
【実績】2回発行(8月、3月)各3,000部

・行政機関や高等教育機関などの施設及び開催講座等の情報収集しそれらをまとめた冊子を発行することで、市民に学習情報を提供することができた

・引き続き、生涯学習の中核施設として、市内で行われている多様な生涯学習情報を収集し、市民が活用しやすいかたちで提供する工夫をしていただきたい。

②子どもの学びガイドの発行

- ▼ 小学校の夏休み前と冬休み前に市内公共施設で開かれる子ども向け事業を紹介する案内チラシ「子どもの学びガイド」を制作し、市立小学校の全児童に配布して、児童と保護者に情報提供を行った。
【実績】4回発行(6月、7月、11月、12月)各93,000部

・小学生向けの生涯学習に関する情報収集及び提供を積極的に行い、学校休業日における児童の自主的な学びを支援した。

③ホームページの活用

- ▼ ホームページの活用
生涯学習センター事業や講座、施設等に関する情報などをホームページにて発信した。

【実績】ホームページアクセス数:837,655件
メールマガジン配信13回
メールマガジン登録者3,080名

【ウェブアクセシビリティ】

- ・ウェブアクセシビリティ方針の公開
- ・「JIS X 8341 3 2016」の適合レベル AA準拠
- ・ウェブアクセシビリティ取組確認・評価表の公表

・ウェブアクセシビリティを意識し、更新及び管理を行った。
・一般貸室の空室検索機能を再開し、利用者の利便性を高めた。
・ウェブアクセシビリティに関する要求書水準を満たすことができた。

・ホームページについては、利用者にとって必要な情報の調べやすさという点では改善が必要と思われるため、引き続き、掲載内容等をご検討いただきたい。

④ 生涯学習センター広報誌の発行

- ▼ 生涯学習センター主催事業や講座及び施設の情報などを提供する広報誌「ら・ちえりあって」を発行し市内の公共施設を中心に配布した。LINE公式アカウントを活用し、広報誌を配信した。
また、広報誌の他、新たな試みとしてX(旧Twitter)による各種情報発信を行うため、令和6年3月末に公式アカウントを開設した。
【実績】4回発行(5月、8月、11月、2月)各回:7,000部
LINE公式アカウント友達登録者数:1,005名

・事業協力者へのインタビューを通じて、生涯学習への関わり方や楽しみ方を紹介した。

・様々な年代の利用者へ情報を届けるため、新たにXによる情報発信を開始したことは評価できる。今後もLINE公式アカウントの運用と併せて、引き続き利用者の立場に立った情報発信を行っていただきたい。

⑤メディアプラザ運營業務

▼ ア メディアプラザ運營業務

広く学習相談に応じるとともに、市民の調べ学習に役立つ図書資料(約2万5千冊)と音楽資料(CD・約1万2千点)の収集と貸出やレファレンスサービスを通じて、学習活動の支援を行うほか、市内の他の図書館・図書室との相互の取り次ぎサービスに対応した。また、チラシ・パンフレットコーナーにおいても、市内の生涯学習講座や文化事業のチラシ・ポスターを掲示し、市民への情報提供を行った。
さらには、無料Wi-Fiを使用し、図書資料やご自身のパソコンなどで調べてもの学習ができる学びのスペース「ちえブース」の提供を行った。
【実績】来場者数135,448名
利用者数52,347名

・特設コーナーを設け、話題や季節に沿ったテーマ展示を行い、図書や音楽資料の貸出促進に繋がった。

・メディアプラザについては、テーマ展示を行う等利用促進の取組を積極的に行っていることを評価する。
・しかし、コロナ前の利用者数には戻っていないため、広報をはじめとする利用者数増加に向けた取組を引き続きお願いしたい。

(a) 図書閲覧・貸出
利用者の幅広い調べ学習を支援するため、蔵書約2万5千冊を閲覧及び貸出しに供するとともに、市内の他の図書館・図書室との相互の取り次ぎサービスに対応した。また、図書を活用した生涯学習に取り組むきっかけを作るため、レファレンス業務を行うなど、所蔵資料や職員の専門性を活かした事業を展開した。
【実績】図書・CD貸出数:72,904点

(b) Chie Terrace事業
市民交流スペース「(愛称)Chie Terrace(ちえテラス)」で、職員等による絵本の読み聞かせやカメラボランティアが撮影した写真を展示した。
【実績】おはなし会(絵本の読み聞かせ)11回356名
ボランティアによる絵本の読み聞かせ2回30名
カメラボランティア作品展示10/8(日)~3/31(日)
38作品

イ 学習相談、サークル・講師の紹介
メディアプラザでの学習相談をはじめ、生涯学習に関する相談に幅広く対応するとともに、「ちえりあ市民講師バンク」に登録している講師や、サークル活動の内容を紹介するなど、市民の学習活動に役立つ情報を提供した。
【実績】メディアプラザ学習相談:10,912件
ちえりあ市民講師バンク登録者数:189名
サークル登録件数:153件
<メディアプラザ学習相談の内訳>
(1) 講座内容等の問い合わせ件数:116件
(2) 施設の照会件数:900件
(3) 講師の紹介件数:53件
(4) 講師登録件数:26件
(5) サークルの照会件数:628件
(6) レファレンス(図書・視聴覚)件数:692件
(7) その他(利用案内など):1,297件

※ メディアプラザ以外での学習相談:7,200件

▽ 生涯学習に関する事業を行う団体との連携及び交流の支援に関する業務

①生涯学習関連施設職員研修(再掲)

▼ 区民センターや地区センターなどの職員を対象に、生涯学習の意義について、生涯にわたり学び続けることがいかに生きがいにつながるか、ボランティアの事例をとおして学ぶ研修を実施した。
【実績】1回13施設14名

・市民が生涯にわたって学び続けることを支援できるよう、新たな学習環境を創出することができた。

・引き続き交流スペースとして積極的な活用を検討していただきたい。

・講座やサークルの照会、レファレンスなど市民の求めに応じた相応しい情報を提供することができた。

・市民講師バンクについて、効果的に市民の学習活動に生かしていただくため、講師情報の発信や取組の評価の方法などに立った事業改善が不可欠である。
・今後、市民の学習ニーズに一層応えられるよう、登録講師のマッチングに関し、生涯学習関連施設や学習サークルへヒアリングを行う等により現状の課題を明らかにし、利用しやすい仕組みづくりを進めていただきたい。

・普段顔を合わせる機会の少ない他施設の職員が集まることで、情報交換を行う機会を提供できた。

②連携講座の実施(再掲)

- ▼ 札幌市立大学との連携については、大学が持っている専門性を市民にわかりやすく提供することを目的に、歴史建造物に関する講座などを実施した。
【実績】
 - ・札幌市立大学:「小樽の歴史的建造物をたどる」20名
「さっぽろの遊郭史」20名
 - ・北海学園大学:「親子で作る! 6種類の野菜料理講座!」
7組14名
「やさしく学ぶ俳句講座」22名

・北海学園大学では、社会教育主事過程で学ぶ学生に、講座を企画してもらい、市民カレッジの講座として実施した。授業の一貫として実際に企画から運営までを担当したことで、生涯学習・社会教育の現場を体験してもらうことができた。

③市立札幌大通高校との学社融合講座の実施(再掲)

- ▼ さっぽろ市民カレッジの一部講座を校舎内で実施し、市民と高校生が共に学ぶ新たな学びの場を創出した。
【実績】25講座564名

・学社融合講座として、高校生と市民による異世代間交流の学びを図ることができた。
・グループワークなどを通じて講座終了後には、高校生と市民との間の親密度が深まった。

・高校生と市民と一緒に同じ講座を受講するだけではなく、異なる世代が共に学ぶことの積極的意義や相互学習による学習効果を見出せるような講座企画の検討をお願いしたい。

④民間企業等との連携講座の実施(再掲)

- ▼ 各企業等との連携した講座を実施した
【実績】
 - ・雪印メグミルク株式会社
「牛のお話と工場探検!」(春・夏期)15名
同(冬期)15名
 - ・アサヒビール株式会社
「つくって、学ぼう! SDGs」15名
「お酒との上手な付き合い方」38名
 - ・東洋水産株式会社
「子どもラーメン道場」10名
「おいしい「めんつゆ」の虎の巻! だしの秘密」40名
 - ・株式会社明治
「発見! チョコレートのひみつ」16名
 - ・株式会社日本能率協会マネジメントセンター
「自分らしい時間<とき>を描こう!」14名
 - ・株式会社インターパークNomaps
「ExcelユーザーのためのChatGPT入門講座」16名
 - ・石山大学
「石山軟石と馬鉄、そして定山溪鉄道と石切山駅」13名
 - ・土木学会北海道支部
「バスで行く! 工場現場見学ツアー」30名
 - ・札幌市円山動物園
「命をつむぐゾウ舎の取り組み」20名

・民間企業等と連携し、それぞれの持つノウハウとネットワークを生かし、多彩な学習機会を提供することができた。

▽ 学習成果の発表及び鑑賞の支援に関する業務

①ちえりあフェスティバル

- ▼ ちえりあの開館(平成12年8月)を記念して、館内の4施設(生涯学習センター、宮の沢若者活動センター、教育センター、リサイクルプラザ宮の沢)が共同で、生涯学習活動に気軽に触れることができる多数のイベントを行った。
【実績】6,361名(1日間)

・幅広い年代層の市民に対して生涯学習の普及啓発を図ることができた。
・休館中の青少年科学館が参加し、ホールやロビーを活用した体験イベントを開催することができた。

・令和4年度よりも大幅に来場者が増加しており、ちえりあフェスティバルはちえりあの存在を多くの人に知ってもらい良い機会になったと考える。今後も創意工夫を凝らしつつ生涯学習の普及啓発に努めていきたい。

②ちえりあロビーコンサート

- ▼ 市内や近郊で音楽活動に取り組んでいる個人、団体から出演者を公募し、音楽活動の発表の場を提供するとともに、市民に気軽に演奏を聴いてもらう機会を提供した。
【実績】7回(7団体出演)683名

・様々なジャンルの音楽を楽しむ機会を提供しており、リピーターも多く市民の音楽鑑賞の場として定着している。

・定期的に開催し、観客のリピーターも獲得していることを評価する。引き続き、市民の活動の発表の場を提供するとともに、市民に気軽に生演奏を聴くことができる機会を提供していただきたい。
・また、このような場を活用してさっぽろ市民カレッジ等のPRにも務めていただきたい。

③サークル発表会

- ▼ ちえりあや市内各施設を拠点に活動している団体に学習成果を披露する場を提供することにより、活動意欲の向上及び活動の活性化を図るとともに、市民がさまざまな生涯学習活動に触れる機会を創出した。
【実績】
(展示部門) 参加19団体(6日間)
(音楽部門) 出演15団体(1日間)来場者329名
(舞踊部門) 出演31団体(3日間)来場者692名

・サークル等の学習成果の発表の場と、市民がそれを鑑賞する機会を作ることができた。
・コロナ禍以前の規模に近づけて開催した。その結果、昨年度より多くの団体に参加してもらうことができ、鑑賞者数も増加した。

・引き続き、市民の活動の発表の場を提供し、活動の活性化につなげていただきたい。

▽ 生涯学習センターの施設の利用等に関する業務

①貸室事業

- ▼ 市民の学習活動の場として、ちえりあホール及び各種研修室を条例に基づき有料で提供した。

・条例に基づき、公正・公平に審査して貸出を行った。
・ホームページで空き状況を公開し、利用者の利便性を高めた。

・引き続き、利用者サービスの向上のため、見直しを行っていただきたい。
・ホームページにおける貸室の案内について、必要な情報の調べやすさという点で改善が必要と思われるため、掲載内容等をご検討いただきたい。

②施設の有効活用

- ▼ 創意工夫による効率的・効果的な事業運営と施設運営を継続した。

・利用者の多種多様な学習活動に適した施設利用方法を提案することや、計画的修繕等を実施することで利用者の利便性向上と安全確保を図ることができた。
・ホール時間貸しの試行実施を行い、利用者の新たな需要を認識できたが、運営面や料金設定などを含め、更に課題を把握する必要があり、次年度も試行していく。

・ホールの時間貸しという新たな試みは評価できる。
・引き続き貸室の利用率向上に向け、創意工夫を行っていただきたい。

- ▼ ギャラリーを市民の学習成果の発表の場として提供した。
【実績】市民貸し出し7件、センター事業2件

・学習成果発表の場となっているとともに、施設内の賑わいに繋がっている。
・作品発表の場として好評を得ている。

・ロビースペース等の賑わいを創出するため、センター主催のイベントを積極的に企画するなど、自主事業での新たな有効活用を期待したい。

▽ その他生涯学習センターの設置目的を達成するために必要な事業

①カルチャーナイト

- ▼ 夜間、公共施設などを開放し、文化活動の発信を通じて、市民の地域文化への関心を高めるとともに、新しい地域文化の創造と発展を図る「カルチャーナイト」に参加し、視覚障がいのある方も楽しめるよう音声ガイド(副音声)付きで映画の無料上映会を実施した。

【実績】

・「映画上映会 in ちえりあ」 来場者77名

・ホールの設備を活用し、多くの市民が参加できるプログラムで実施することができた。

・引き続き、生涯学習センターの利用者数の増加につながるような事業の企画・検討をお願いしたい。

	<p>②北海道吹奏楽フェスティバル</p> <p>▼ 異世代の交流と教育プログラムの実践をメインに、プロ講師やアマチュア演奏家と中学生や高校生が合奏しながら音楽を楽しむコンサートを開催し、吹奏楽活動の支援と普及を図った。 【実績】2日間4公演12団体1,050名</p>	<p>・学校や世代を超えて出演者全体で一体感を味わる内容で実施し、老若男女問わず多くの方に来場してもらうことができた。 ・年齢や立場に関わらない出演者間の交流と活動成果の発表の場となった。</p>									
(5)施設利用に関する業務	<p>▽ 利用件数等 別添のとおり</p> <p>▽ 不承認0件、取消し74件、減免1,335件、還付114件(変更による還付含む)</p> <p>▽ 利用促進の取組</p> <p>▼ 丁寧な対応で、できる限り利用者のニーズに沿うよう貸室提案をした。</p>	<p>・利用者から要望が多かった備品を新たに導入したり、使いやすいよう音響機器の設置を見直したり等利用者の利便性向上に努めた。 コンピュータ研修室には、各座席にアダプタを設置することで利用しやすくした。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>・利用者のニーズに適宜対応し、利便性の向上に努めたことを評価する。</p> </td> </tr> </table>	A	B	C	D	<p>・利用者のニーズに適宜対応し、利便性の向上に努めたことを評価する。</p>			
A	B	C	D								
<p>・利用者のニーズに適宜対応し、利便性の向上に努めたことを評価する。</p>											
(6)付随業務	<p>▽ 広報業務</p> <p>▼ 生涯学習センター主催事業や講座及び施設の情報などを提供する広報誌「ら・ちえりあって」を発行し市内の公共施設を中心に配布した。LINE公式アカウントを活用し、広報誌を配信した。(再掲) また、広報誌の他、新たな試みとしてX(旧Twitter)による各種情報発信を行うため、令和6年3月末に公式アカウントを開設した。(再掲) 【実績】4回発行(5月、8月、11月、2月)各回:9,000部 LINE公式アカウント友達登録者数:1,005名</p> <p>▼ ホームページの活用(再掲) 生涯学習センター事業や講座、施設等に関する情報などをホームページにて発信した。 【実績】ホームページアクセス数:837,655件 メールマガジン配信13回 メールマガジン登録者3,080名</p> <p>【ウェブアクセシビリティ】 ・ウェブアクセシビリティ方針の公開 ・「JIS X 8341 3 2016」の適合レベル AA準拠 ・ウェブアクセシビリティ取組確認・評価表の公表</p> <p>▽ 引継ぎ業務</p> <p>▼ 継続して指定管理業務を行っているため、引継ぎは発生していない。</p>	<p>・広報誌、HP、LINEの他にXの新規導入も行い、さまざまな媒体を利用することで、広く市民の皆さまに情報を提供することができた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>・様々な年代の利用者へ情報を届けるため、新たにXによる情報発信を開始したことは評価できる。今後もLINE公式アカウントの運用と併せて、引き続き利用者の立場に立った情報発信を行っていただきたい。 ・ホームページについては、利用者にとって必要な情報の調べやすさという点では改善が必要と思われるため、引き続き、掲載内容等をご検討いただきたい。</p> </td> </tr> </table>	A	B	C	D	<p>・様々な年代の利用者へ情報を届けるため、新たにXによる情報発信を開始したことは評価できる。今後もLINE公式アカウントの運用と併せて、引き続き利用者の立場に立った情報発信を行っていただきたい。 ・ホームページについては、利用者にとって必要な情報の調べやすさという点では改善が必要と思われるため、引き続き、掲載内容等をご検討いただきたい。</p>			
A	B	C	D								
<p>・様々な年代の利用者へ情報を届けるため、新たにXによる情報発信を開始したことは評価できる。今後もLINE公式アカウントの運用と併せて、引き続き利用者の立場に立った情報発信を行っていただきたい。 ・ホームページについては、利用者にとって必要な情報の調べやすさという点では改善が必要と思われるため、引き続き、掲載内容等をご検討いただきたい。</p>											

2 自主事業その他

▽ 自主事業・収益事業		A	B	C	D
<p>① レストラン事業</p> <p>▼ ちえテラスに隣接したスペースにおいてカフェを運営し、来館者へ飲食物等を提供した。 売上手数料収入3,104千円</p> <p>② 自動販売機事業</p> <p>▼ 売上高2,649千円(計画 3,172千円)</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>▼ 委託業務、物品の購入などは、市内の企業に発注を心がけた。</p> <p>▼ 障がい者雇用(令和5年度 1名)</p>	<p>・サークル活動後の交流や、学生の勉強、地域の憩いの場など、幅広い用途で利用される場を運営することができた。</p> <p>・利用が回復し、売上高はオープン以来最高額となるなど、地域に根付いた運営ができていると考える。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い利用率が回復したが、当初の計画には至らなかった。</p> <p>・委託、物品の発注等は、市内企業を積極的に活用した。</p>				<p>・レストラン事業については、利用が回復し、売上げが過去最高となったことは評価できる。</p> <p>・自主事業については、サービスの向上と収益性の両面を見据えた事業展開を期待したい。</p> <p>・また、新たな自主事業の検討も進めていただきたい。</p>

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	貸室利用者アンケートは利用ごとに記述式のアンケートを回収。メディアプラザ利用者、講座受講者、期間中の主催事業参加者を対象に記述式のアンケートを実施。 (期間: 令和5年4月1日～令和5年12月28日)
結果概要	2階窓口にて、アンケートの集計結果や寄せられた意見及び回答を掲示した。 ●総合満足度 【貸室利用者】(N=2,347)とても満足:55.6% まあ満足:41.8% 普通:2.4% 少し不満:0.3% 不満:0.0% 【事業参加者】(N=293)とても満足:51.5% まあ満足:43.3% 普通3.8% 少し不満:1.4% 不満:0.0% ●接遇 【貸室利用者】(N=2,308)大変良かった:63.8% まあ良かった:31.8% 普通:4.3% あまりよくなかった:0.1% 悪かった:0.0% 【事業参加者】(N=236)大変良かった:63.4% まあ良かった:31.2% 普通:4.7% あまりよくなかった:0.3% 悪かった:0.3% ●生涯学習事業 (N=321)とても満足:53.0% まあ満足:43.0% 普通:3.7% 少し不満:0.3% 不満:0.0%
利用者からの意見・要望とその対応	・「飲食ができるテーブル」「6階ラウンジ」「水が飲めるように」など、食事場所や休憩に関する要望が複数あったことから、1階ロビーに常設ベンチを設けた。また、コロナ禍で休止した水飲み場の点検と水質検査を行い、令和6年夏を目途に再開を目指している。 ・「子ども向けの本」「絵本」「おもつ替えスペース」「子どもが遊べる場所」がほしいなど、子連れの利用者からの声が多く届いた。そこで、ちえテラス内に絵本があることや、2階の授乳室(オムツ替え可)のPRを強化した。

・のべ2000名を超える利用者にアンケートをとることができた。
・「総合満足度」「接遇」ともに、「とても満足」及び「まあ満足」の割合が昨年度を上回った。
・「生涯学習事業」に絞ったアンケートでも指定管理要求水準を大きく上回ることができた。

・休憩場所の増設などは、対応できるものから対応した。
・年度をまたいで対応中のものもある。

A	B	C	D
・アンケート結果において、要求水準を上回っていることは評価できる。 ・利用者からの意見・要望については、できる限り対応し、市民サービスの向上に努めていきたい。			

4 収支状況

▽ 収支 (千円)			
項目	R5年度計画	R5年度決算	差(決算-計画)
収入	473,811	494,137	20,326
指定管理業務収入	468,239	488,384	20,145
指定管理費	372,473	393,171	20,698
利用料金	82,922	81,798	▲ 1,124
その他	12,844	13,415	571
受取補償金	0	0	0
自主事業収入	5,572	5,753	181
支出	556,610	528,301	▲ 28,309
指定管理業務支出	553,025	524,778	▲ 28,247
自主事業支出	3,585	3,523	▲ 62
収入-支出	▲ 82,799	▲ 34,164	48,635
利益還元	0	0	0
法人税等	60	39	▲ 21
純利益	▲ 82,859	▲ 34,203	48,656

・コロナ禍前の利用率に戻りつつあるが、利用料金収入については、計画を達成できなかった。
 ・その他の収入については、各講座の定員数を通常の定員に戻し、参加率も概ね良好だったことから、計画に対し微増の結果となった。
 ・昨今の社会情勢の影響で、光熱費や物価の上昇の影響があることから、引き続き空調設備等の運用方法を再度見直しを図っていく。

A	B	C	D

・物価高騰や人件費の増加による支出増はあるが、財政状況が厳しい中、堅実経営に努めたことは評価する。
 ・今後は収入の増につながる自主事業の展開もご検討いただきたい。

▽ 説明

- ▼ 利用料金収入とは、施設利用料や物件使用料、駐車場利用料などである。計画に対して、1,124千円の減であった。
- ▼ その他収入とは、さっぽろ市民カレッジ受講料が主なものであり、計画に対して、570千円の増であった。
- ▼ 自主事業収入は、自動販売機、飲食店の売上手数料である。飲食店の売り上げは計画に対し増であり、自動販売機は計画に対し減となったものの、全体的には増となった。

＜確認項目＞ ※評価項目ではありません。		
▽ 安定経営能力の維持 ▼ 公益財団法人として求められる水準を満たすため、主たる事業である公益目的の事業において利益を得ることはできていないが、貸室の利用率やさっぽろ市民カレッジの受講者数などは一定の水準を保っている。		<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 適 </div> 不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ▼ 札幌市個人情報保護条例の趣旨に則り「公益財団法人札幌市生涯学習振興財団個人情報保護規則」及び「公益財団法人札幌市生涯学習振興財団個人情報事務取扱要綱」を制定し、個人情報を適正に管理した。 ▼ 管理サイト全体の暗号化、個人情報パスワード保護に加えチェック体制の強化に努めている。 ▼ 主な個人情報について、紙媒体は鍵付きキャビネットで、電子データはパスワード管理にて、厳格な保守管理の下、適正に取り扱っている。 ▼ 情報公開については、ホームページ上で個人情報の取扱いについて、基準及び規程を公開している。 ▼ 財団の定款、役員名簿、事業計画、事業報告、財務諸表等をホームページで公開しており、センターの運営状況の積極的な情報開示を行っている。 ▼ 受託者やその他契約の相手方について、「札幌市暴力団の排除の推進に関する条例」と「暴力団の排除にかかる照会事務マニュアル」に基づき事務を行っている。 ▼ 業務委託などの取引先をはじめ、貸室利用受付時においても暴力団員または関係事業者を相手方としないよう確認している。		<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 適 </div> 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>さっぽろ市民カレッジは、幅広い年齢層を対象に、市民活動系、産業・ビジネス系、文化・教養系を合わせて203講座を実施した。市民のさまざまな学習ニーズに対応するため、生涯学習センター企画講座に加え、ちえりあ学習ボランティアやご近所先生(市民講師)の企画・運営による講座や大学・企業とも連携した講座を実施するなど、市民に多様な学習機会を提供した。ご近所先生企画講座は、区民センターや地区センター、図書館と連携し、全市的に展開した。</p> <p>また、とかち鹿追ジオパーク・ビジターセンターから中継した「魅力再発見!「ジオパーク」」など多様な学びの場の整備に向けた取り組みを進めた。</p>	<p>さまざまな時代や環境の変化への対応と、市民の利便性向上に向けて、市民カレッジのあり方、体系、運営方法の見直しについて検討する。また、利便性向上や業務効率化などを図るためのシステム改修等についても検討する。</p>
<p>メディアプラザにおいては、講座内容と連携した図書資料の展示や音楽資料(CD)を活用した特集を行い、利用促進に努めた。</p>	<p>メディアプラザの幅広い年代の利用を促進し、学びの場の提供を行う観点から、現状において利用者の少ない層である子育て世代などへ提供する機能の充実を検討する。</p>
<p>貸室事業については、新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたことから、催事や研修、サークル利用などでの利用が増えて、利用率が向上した。</p> <p>特に大研修室、中研修室といった大型の部屋での利用率上昇が目立ち、貸室全体を通して前年度比1割近くの上昇が見られた。</p> <p>利用者からの要望に応じて新しい備品を導入したり、ホール時間貸しの試行を行ったりするなど新しい利用者の掘り起こしにつながる取組を行った。</p>	<p>利用料金の振込対応の導入や一斉受付方法の見直しを行うとともに、貸室予約システムを更新し利用者の利便性を高めるため、業務の効率化を図る。</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進む中、入居する4団体を統括する立場として、施設全体の維持管理を適切に行っていることを評価する。 ・ソフト事業については、市民カレッジをはじめ、多様な講座の企画・運営を行い、本市の生涯学習の推進に努めたことを評価する。 ・貸室の運用については、ホールの時間貸し等、新たな運用の検討に着手し、利用者の利便性・サービス向上に努めたことを評価する。 ・引き続き、本市の生涯学習の中核施設として、機能の拡充・強化を目指した事業展開を期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の利便性・サービス向上の取組は今後も積極的に実施していただきたい。 ・調査研究事業の実施時期や内容を改めて検討し、市民カレッジなどのソフト事業の発展につなげていただきたい。なお、仕様書にあるとおり、調査内容については、事前に所管局に協議の上実施すること。 ・貸室の運用については、利用料金の振込対応や一斉受付の見直しについて引き続き検討いただきたい。なお、検討に当たっては所管局への情報共有や必要な手続きについて適宜確認すること。 ・利用者数の増加につながるよう、ホームページの見直しや生涯学習のPRにつながる取組も検討いただきたい。

▽ 生涯学習センター貸室別利用件数等

		R3実績	R4実績	R5計画	R5実績
ホール	件数(件)	59	556	561	569
	人数(人)	9,839	117,903	119,057	135,465
	稼働率(%)	50.9	71.5	72.2	71.1%
音楽スタジオ 1 (副調整室)	件数(件)	63	521	614	662
	人数(人)	402	3,403	4,008	3,879
	稼働率(%)	70.2	78.7	92.7	91.4%
音楽スタジオ 2	件数(件)	58	651	684	761
	人数(人)	377	4,301	4,520	5,248
	稼働率(%)	61.4	92.5	97.2	96.0%
演劇スタジオ 1	件数(件)	59	594	627	760
	人数(人)	1,073	10,426	11,008	12,717
	稼働率(%)	63.2	91.4	96.5	97.4%
演劇スタジオ 2	件数(件)	72	706	719	723
	人数(人)	888	7,841	7,989	7,547
	稼働率(%)	78.9	95.1	96.9	96.0%
サークル 活動室1	件数(件)	92	702	748	710
	人数(人)	756	5,742	6,116	5,930
	稼働率(%)	87.7	92.2	98.2	94.5%
サークル 活動室2	件数(件)	87	626	695	673
	人数(人)	891	6,077	6,744	6,859
	稼働率(%)	80.7	86.5	96.0	89.7%
サークル 活動室3	件数(件)	66	532	591	606
	人数(人)	617	5,366	5,962	6,292
	稼働率(%)	64.9	81.0	90.0	87.9%
サークル 活動室4	件数(件)	48	437	525	521
	人数(人)	584	5,904	7,094	6,570
	稼働率(%)	66.7	74.4	89.4	84.8%
サークル 活動室5	件数(件)	66	494	567	537
	人数(人)	806	6,305	7,240	7,883
	稼働率(%)	61.4	75.5	86.7	78.4%
大研修室	件数(件)	44	425	454	511
	人数(人)	1,990	24,251	25,934	30,974
	稼働率(%)	45.6	66.3	70.9	76.1%
中研修室1	件数(件)	34	457	523	537
	人数(人)	1,016	18,030	20,626	21,238
	稼働率(%)	31.6	64.6	73.9	74.1%
中研修室2	件数(件)	32	465	582	583
	人数(人)	932	16,968	21,247	22,957
	稼働率(%)	28.1	68.6	85.9	81.9%

		R3実績	R4実績	R5計画	R5実績
研修室1	件数(件)	51	491	491	535
	人数(人)	572	5,839	5,839	6,418
	稼働率(%)	56.1	76.4	72.2	83.6%
研修室2	件数(件)	46	440	440	457
	人数(人)	880	8,785	8,785	9,640
	稼働率(%)	45.6	64.0	92.7	72.7%
研修室3	件数(件)	34	297	297	406
	人数(人)	415	3,753	3,753	5,651
	稼働率(%)	33.3	48.4	97.2	64.1%
研修室4	件数(件)	28	255	255	340
	人数(人)	292	3,097	3,097	4,966
	稼働率(%)	24.6	44.4	96.5	55.5%
研修室5	件数(件)	38	398	398	510
	人数(人)	733	9,694	9,694	14,089
	稼働率(%)	43.9	64.0	96.9	77.3%
研修室6	件数(件)	43	370	370	489
	人数(人)	832	9,225	9,225	14,065
	稼働率(%)	49.1	63.4	98.2	76.7%
コンピュータ 研修室	件数(件)	4	136	136	128
	人数(人)	120	2,643	2,643	2,935
	稼働率(%)	3.5	25.1	96.0	24.1%
アトリエ	件数(件)	14	188	188	197
	人数(人)	124	2,828	2,828	3,616
	稼働率(%)	22.8	39.5	90.0	42.8%
陶芸室	件数(件)	12	238	238	274
	人数(人)	198	3,143	3,143	4,029
	稼働率(%)	21.1	47.6	89.4	48.6%
映像スタジオ	件数(件)	30	413	413	347
	人数(人)	527	9,605	9,605	8,126
	稼働率(%)	35.1	68.0	86.7	62.9%
講堂	件数(件)	44	443	443	465
	人数(人)	3,414	49,634	49,634	63,786
	稼働率(%)	47.4	69.5	70.9	70.1%
和室・茶室	件数(件)	25	255	255	277
	人数(人)	142	1,661	1,661	1,950
	稼働率(%)	33.3	51.3	73.9	54.0%
全体	件数(件)	1,149	11,090	11,090	12,578
	人数(人)	28,420	342,424	342,424	412,830
	稼働率(%)	48.3	68.0	85.9	74.1%

令和5年度(2023年度) 研修参加一覧

(公財)札幌市生涯学習振興財団

	研修会等名	主催団体	日程	会場	参加者	区分	
						指定管理	内容
1	生涯学習センター新採用職員研修	(公財)札幌市生涯学習振興財団	4/3(月)	生涯学習センター	新採用契約職員2名	A	接客・接客 業務知識
2	係長職研修	(公財)札幌市生涯学習振興財団	4/24(月)	生涯学習センター	正職員6名	Q	業務知識
3	公益法人会計初級編・決算実務編	満喜株式会社	4/26(水)	かでの2・7	正職員3名	J	会計・経理
4	令和5年度全国生涯学習センター等研究交流会	国立教育政策研究所社会教育実践センター・社会教育センター等協議会	5/26(金)	Web会議システム (Zoom)	正職員2名	H	業務知識
5	北海道社会教育セミナー	北海道立生涯学習推進センター	6/1(木)~2(金)	かでの2・7	正職員3名	H	業務知識
6	スキルアップ研修1	札幌市中央図書館	6/14(水)	中央図書館	正職員1名	L	業務知識
7	令和5年度第1回ホール連絡協議会	ホール連絡協議会	6/19(月)	北海道青少年会館	正職員1名	T	業務知識
8	防災訓練	(公財)札幌市生涯学習振興財団	8/24(木)	生涯学習センター	正職員10名、契約職員8名	M	防火・防災
9	コンプライアンス研修	(公財)札幌市生涯学習振興財団	9/6(水)	生涯学習センター	40名	Q	コンプライアンス
10	自衛消防再講習	(公財)札幌市防災協会	9/20(水)	防災協会	正職員1名	M	防火・防災
11	令和5年度一般職員研修	(公財)札幌市生涯学習振興財団	10/5(木)	生涯学習センター	正職員5名	T	業務知識
12	令和5年度中堅職員研修	(公財)札幌市生涯学習振興財団	11/2(木)	生涯学習センター	正職員5名	T	業務知識
13	ハラスメント・メンタルヘルス研修	(公財)札幌市生涯学習振興財団	11/22(水)	生涯学習センター	40名	P	ハラスメント・メンタルヘルス
14	防災訓練	(公財)札幌市生涯学習振興財団	12/22(金)	生涯学習センター	正職員7名、契約職員4名	M	防火・防災
15	令和5年度全道図書館専門研修	北海道図書館振興協議会	R6/1/26(金)	オンライン	契約職員1名	T	業務知識
16	自衛消防業務新規講習	(公財)札幌市防災協会	R6/2/7(水)~8(木)	防災協会	正職員1名	M	防火・防災
17	職場におけるハラスメントトラブルと企業対応セミナー	札幌商工会議所	R6/2/13(火)	北海道経済センター	正職員2名	P	ハラスメント・メンタルヘルス
18	第2回ホール連絡協議会	ホール連絡協議会	R6/2/14(水)	千歳市民文化センター	正職員2名	T	業務知識
19	情報セキュリティ研修	(公財)札幌市生涯学習振興財団	R6/1/18(月)~2/29(木)	生涯学習センター	40名	Q	コンプライアンス
20	防災訓練	(公財)札幌市生涯学習振興財団	R6/3/15(金)	生涯学習センター	正職員6名	M	防火・防災